

私が小さい頃は、列車の遅れの理由が説明されることなく、長い時間待たされたものですが、近年は、駅や車内で理由を丁寧に説明してくれることが多くなりました。さらに驚きなのが、鉄道事業者からの案内放送などよりも先に、SNSなどを介して、その情報が世の中に広まっていることも珍しくありません。最近では、街中で周囲を見回すと、手に持ったスマートフォンなどに視線を向けている人を、必ず見かけることができると言っても過言ではないと思います。ニュース、SNS、メール、ゲーム、動画鑑賞など、スマートフォンなどに夢中になる理由はさまざまだと思いますが、いつでもどこでも、欲しい情報を手に入れ

ることができる世の中になりつつあるのは間違いないと思います。鉄道においても、列車の安全・安定輸送のために、さまざまな情報が活用されています。この情報の活用方法を、本誌で紹介したようにさらに発展させ、より効率的な新しい鉄道運行システムの構築に向けて研究開発に取り組んでまいります。

次号では、「鉄道構造物の保全技術」を特集します。建設から50年以上経つ鉄道構造物が増える中、構造物の現在の状態把握、維持管理が課題となります。その課題の解決に向けた最新の取り組みについてご紹介します。ご期待ください。(K.N.)